

会 議 録

会 議 名		令和8年度(2026 年度) 第2回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
日 時		令和 8 年(2026 年)6月 12 日(金) 午後6時 00 分～午後8時 00 分
場 所		八王子市役所 801 会議室
出席者氏名	委 員	師岡章会長、荒井雄一副会長、大木真佐子委員、尾川幸次委員、川越優紀委員、串田和士委員、齋藤舞凜委員、田中慎二委員、野中真理子委員、藤枝充子委員、藤本彩乃委員、町田利恵委員、和田直也委員(会長、以下五十音順)
	説 明 者	小池子ども家庭部長、中正子どものしあわせ課長、星野教育・保育発達支援課長、齊藤保育幼稚園課長、堀川公立保育園担当課長、前田子育て支援課長、河合青少年若者課長、吉本こども家庭センター館長、遠藤放課後児童支援課長、上野統括指導主事、鶴田特別支援・情報教育担当課長、中村学習支援課長、石川防犯課長、伊藤交通事業課長、長田教育指導課課長補佐
	事 務 局	辻野主査、大石主査、堀内主任、相澤主事
欠 席 者 氏 名		小楠安輝子委員、中林秀人委員、早乙女進一委員、森田亮委員
議 題		報告事項 (1)「はいチーズ！フォト」の情報漏えいについて (2)市内保育施設に在籍する児童情報の誤送信について 議題 (1)令和7年度(2025 年度)分八王子市子ども・若者育成支援計画の取組状況及び評価について
公開・非公開の別		公開
傍 聴 人 の 数		0 人
配 付 資 料 名		別紙のとおり
会 議 の 内 容		別紙のとおり

配付資料

○資料1 委員名簿

○資料2 令和7年度(2025 年度)子ども・若者育成支援計画 点検評価報告書(案)
(基本方針1・2・3)

【事務局】

定刻となりましたので、ただ今から、八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会令和8年度第2回会議を開催します。本分科会は、委員の過半数の出席が開催要件となっておりますが、本日は委員17名中、出席者が13名で、開催要件を満たしておりますことをご報告いたします。なお、本日は 小楠委員、早乙女委員、中林委員、森田委員から欠席の連絡を受けております。

続きまして、本日の審議内容に関係する所管課長が出席しておりますのでご紹介します。生活安全部防犯課長の石川です。道路交通部交通事業課長の伊藤です。生涯学習スポーツ部放課後児童支援課長の遠藤です。なお、前回と同じ所管課長は割愛させていただきます。よろしくお願いいたします。

続きまして、令和8年6月1日付で委員変更がありましたので、紹介させていただきます。八王子市町会自治会連合会 前原教久委員から尾川幸次委員に変更となりました。では、尾川委員から自己紹介をお願いします。

【尾川委員】

八王子市町会自治会連合会の尾川です。前任の前原委員が長く務められていましたがここで私に変更となりました。児童福祉の分野に関しては初めてですがよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。続いて本日配付しました資料の確認をいたします。まず、本日の会議の次第です。次に、資料1 委員名簿、資料2 令和7年度(2025年度)子ども・若者育成支援計画点検評価報告書(案)(基本方針1・2・3)以上、次第を含め3点となります。資料に不足がある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、ここからの進行につきましては、師岡会長にお願いしたいと思います。

【師岡会長】

皆さんこんばんは。お集まりいただきありがとうございます。それでは本日の案件に入りたいと思います。事務局から急遽報告したい事項があるということですので、こちらについて事務局からご説明をお願いいたします。

【堀川公立保育園担当課長】

「はいチーズ！フォト」の情報漏えいについて 説明

【齋藤保育幼稚園課長】

市内保育施設に在籍する児童情報の誤送信について 説明

【師岡会長】

ありがとうございます。ただいまの2件の報告に関して、皆さんからご質問あるでしょうか。川越委員どうぞ。

【川越委員】

ご説明ありがとうございます。はいチーズ！フォトに関しては、不正アクセスという行為を行う側が悪く、また委託企業の情報漏えいとなるので市に責任はないと思っております。委託先からの現時点での情報提供内容についてお話がありましたが、今後委託先からの更なる情報提供の見込み等はあるでしょうか。

【堀川公立保育園担当課長】

委託先企業が全国規模ということでシステム担当者と直接お話ができていない状況であります。詳細な情報をいただけるよう要求しておりますが、どこまでいただけるかについては現在のところは不明でございます。

【川越委員】

状況が分かりました。ありがとうございます。

【師岡会長】

他はございますか。串田委員どうぞ。

【串田委員】

児童情報の誤送信についてですが、今のお話を聞くと手作業で不必要な情報を削除してから送信するというので、対象となる施設も多く逆に今までよく起きなかったなと思っています。メールでのやり取りは弊害が多いので、施設側が市のサーバーなどにアクセスして必要な情報を取りに行くという仕組みであれば誤送信や漏えいが防げるので市の方でも検討されていると思いますがよろしくお願いします。

【齋藤保育幼稚園課長】

この作業を行っていたのは認定こども園のみで、ある程度の自動化は行っておりましたがチェック体制を強化するなど再発防止に取り組んでまいります。またメールですと一度送信してしまうと簡単に取り戻すということができないことがございますので、委員が今おっしゃっていただいたようにデータをクラウドにアップして、それを各園で取りに行っていたかどうかという仕組みを現在検討しておりますので早めに対応できるよう対応してまいりたいと考えます。

【串田委員】

保護者の方は急に文書が届き大分混乱されていまして、今の点も含めご説明いただくと安心されると思うのでよろしくお願いいたします。

【師岡会長】

他よろしいでしょうか。外部からの不正アクセス、さらには内部の手続きを含めた不備ということで、要因は多少異なりますけれども、いずれも再発防止に向けて分科会としても丁寧なご対応を望みたいと思います。

では、議題に入ります。令和7年度の八王子市子ども・若者育成支援計画の取り組み状況及び評価について、前回に引き続いて、残っております基本施策の1から3まで時間が許す限り分科会としての評価を行っていききたいと思います。ではご説明の方、よろしくお願いいたします。

【事務局】

（事務局から資料2について説明）

資料2「令和7年度（2025 年度）子ども・若者育成支援計画 点検評価報告書（案）（基本方針1・2・3）」に基づき、基本方針1の各施策の事業の取組内容及び実績について一括説明。

【師岡会長】

ご説明ありがとうございました。繰り返しになりますが基本方針1 未来を担う子ども・若者の育成に関して基本施策は5つあります。では基本施策の1から分科会としても、意見・質疑をしながら最終的に評価をしてまいりたいと思います。いかがでしょうか。和田委員どうぞ。

【和田委員】

2 ページ目の不登校の子どもの教育の機会と居場所について伺います。はっちこルームではスクールソーシャルワーカーと相談を実施した中でアカウントを配付した数が92人いるという中でこの92人という数字について実際どのぐらい使われているのか教えていただければと思います。

それから小中学校と連携という言葉がありますが、不登校に対しては連携することが大事だなと思っていますがこの基本方針1以外でも出てくるのかもしれませんが市内のフリースクールとの連携についてここには出てきていませんがいかがでしょうか。

最後は保護者サロンについて、これは何回もやっていたと思っていますが毎回満員になるのかそれとも参加者にばらつきがあるなど参加の実態を伺いたいです。

【師岡会長】

では、ご担当の部署の方をお願いします。

【教育指導課長田課長補佐】

先ず1点目のはちっこルームのアカウントについてですが、毎月の利用者数について資料はございますが本日持ち合わせておりませんので、次回改めてご報告させていただきます。利用実態については個人差があり、毎日のように入ってくるお子さんもいれば、1回2回試してみるというお子さんもおり、92人の方が全て一度に入るといったことはないので、入ってみたら他の人がおらず、東京都が準備している支援員さんとやりとりをして思っていたものと違うという理由で利用をやめてしまったというお子さんもいらっしゃいますがスクールソーシャルワーカーと連絡をしながら、この日にまた会おうという約束のもとに、利用をするということが多くなっております。

【教育指導課上野統括指導主事】

フリースクールとの連携についてお話をさせていただきます。本市ではフリースクール等連絡協議会を年2回、実施しておりまして各フリースクールや放課後デイサービスの方、各学校の代表の先生方に集まっていただき本市の不登校施策についての共通理解と子どもたちの情報共有をさせていただいております。

【教育指導課長田課長補佐】

保護者サロンにつきましては、年4回ほどを実施しています。定員は60名として募集をかけ毎回30名ほどの申込があり、実際の参加者数は25、6名ほどとなっております。

【和田委員】

ありがとうございます。不登校は根深い話だと感じますし、ここは是非連携していただきたいと思います。あとフリースクールの連携については、確かに連絡協議会があり活動されているところあると思いますが、実際の連携の形として、なかなか横のつながりが感じられない事実もあるようです。市に丸投げすることではないと思うのでフリースクール側や保護者も含めて一緒に考えていき、実のある連携の形を取れたらよいと思います。保護者サロンについては、保護者の方で困っている方は大勢いらっしゃると思いますので、定員に達している状況でなければ周知の方法を検討いただき認知度を高めていただければと思います。

【師岡会長】

貴重なご意見ありがとうございます。他はいかがでしょうか。尾川委員どうぞ。

【尾川委員】

1 ページ目の最初にこども☆ミライ会議と書いてありますが、星印が付けてありミライという言葉がわざわざカタカナで書いてあります。この会議を開始するにあたり象徴的な言葉として何か強い思いがあったのではと推察されますが、これから会議に参加するにあたり理解しておかなければならない部分と考えるのでこちらの理由についてご説明をお願いします。

【河合青少年若者課長】

市制 100 周年の際に子どもミライフォーラムというものを開催いたしました。このミライフォーラムの未来がカタカナで表記されており、子ども☆ミライ会議についてはこのミライフォーラムの内容を子どもたちが引き続き会議で実現していくという趣旨でこのカタカナを引き継いだものとなります。ミライフォーラムの未来がなぜカタカナかという点につきましては、漢字であるよりカタカナで表記した方が子どもたちはなじみやすいという視点や趣旨はあったということは確認が取れています。

【尾川委員】

ありがとうございます。次に同じページの施策の 2 番の子どもが相談しやすい環境づくりの冒頭に児童・生徒に相談できる大人が 1 人でもできるようにとありますが、大人が児童・生徒に相談するという誤解を与えてしまう表現となっているので修正を行ったほうがよいと思います。

【師岡会長】

今のご指摘についてはいかがですか。

【中正子どものしあわせ課長】

表記に不足がございまして、児童・生徒にとって相談できる大人が 1 人でもできるような意味合いが省略された結果、委員おっしゃるように逆に大人が子どもに相談するような誤解を招きかねない表現ですので改めさせていただきます。

【師岡会長】

他はいかがでしょう。串田委員どうぞ。

【串田委員】

指標2について実績値が下がっているところがありますが、こちらについての原因は分かるでしょうか。

【上野統括指導主事】

学校では本調査を学期に1回実施させていただいておりますがその時々の子どもたちの心理状況もありまして、やはり年度当初というのは不安が大きいお子さんたちもいまして、学期を追うごとに段々相談できる大人を獲得していく場合もございますので年度によって少し数値の変動はありますが、そのようにご理解いただきますようお願いいたします。

【串田委員】

ありがとうございます。実績値の99.2%などほぼ全員で99.2%以上を目指すというのはなかなか難しいのではないかと思います、この辺りについてはどのようにお考えでしょうか。

【上野統括指導主事】

本市では、児童・生徒全員に頼れる大人がいるということを目指しているところでございます。例年、学校でも対応をしていく中で、親御さんであってもなかなか相談できないという子どもたちもおりますので、例えば学校であれば先生やスクールカウンセラーさんなら話ができるなど、誰ひとり取り残すことなく相談できる大人を獲得してほしいという意味での指標となっております。

【串田委員】

今後も継続的に進めていくことに意味があるという理解でよろしいですか。

【上野統括指導主事】

その通りでございます。

【師岡会長】

荒井副会長どうぞ。

【荒井副会長】

今の説明のとおりとなりますが、現場の状況といたしましては実際に相談できる大人がいないとか先生のみと書いてくる子どももおります。これを基に話を聞き、実はDVを受けていたなど見えてくる部分もあります。当然100%を目指してまいります、現場としては子どものニーズ、実情を担いながら、個別に対応できる機会を得られているなどすごく感じており、必要な対応が速やかにできる可能性がある、とても大切な調査だと思っております。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。それでは本分科会としての評価に移りますが、市はB評価ということでですが、指標の実績などをご覧いただきながら、いかがでしょう。同じくB評価が妥当でしょうか。ありがとうございます。ではB評価とさせていただきます。

続きまして基本施策2の生きる力を育む遊びや体験の充実に関しましてはいかがでしょうか。和田委員どうぞ。

【和田委員】

3 ページの身体を使った遊びやスポーツができる環境づくりのところで、ボール遊びのできる公園として36公園を紹介するとありますが、ボール遊びができる公園はもう増えることはなさそうなのではないでしょうか。ボール遊びができる公園数が減っているのではないかと考えているのですが、この点について実情をお伺いしたいです。

【河合青少年若者課長】

ボール遊びにつきましては公園課が中心となり議論しているところであります。ボール遊びのニーズはございますので、この点も踏まえながら議論がまとまったところで回答させていただきたいと考えます。

【和田委員】

ありがとうございます。やはり可能な公園数が減るということは近隣からのクレームがあるので使用不可とせざるを得ないという背景でしょうか。

【河合青少年若者課長】

ボール遊びをすることによって、ボールが道路に飛び出してしまうとか近隣のお宅の敷地に入ってしまうなど安全面の関係もあり、公園のルールを策定しております。

【師岡会長】

他はいかがでしょう。藤枝委員どうぞ。

【藤枝委員】

指標1の体育の授業のほかにも運動をしている小学生・中学生の割合の実績のところ、どちらも策定時の実績から少し減っていますが、これは微減ということで、それほど意識する必要がないものではないでしょうか。

【上野統括指導主事】

こちらの数値は年度により多少の上下はあり、今回は微減となりますが大きく減少しているという捉え方はしておりません。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。よろしいですか。それでは、市はB評価ということですが、今、確認していただいた指標の実績などを踏まえながら、B評価が妥当でしょうか。では分科会としてはB評価とさせていただきます。

【師岡会長】

続いて、基本施策 3 乳幼児期の教育・保育の質の向上についてはいかがでしょう。藤枝委員どうぞ。

【藤枝委員】

施策 7 に各園の保育実践や環境の強みを活かし乳幼児一人ひとりの…という記載がありますが、この一文の最後に幼児教育・保育の質の向上が図られましたとまとめてくださっていますが、具体的にどのような点で、どのような向上があったのでしょうか。

【星野教育・保育発達支援課長】

こちらにつきましては、東京都のすくわくプログラムというものを活用して、例えば園庭に身近にいるバッタやカマキリなどの卵が成虫になる過程に子どもが興味を持った際に、今までは既にある教材を提供するなどを行っていましたが、どのように育てたいかや、えさの取り方、その後すぐ増えてしまったときにどうしようかというようなことなど保育者が子ども一人ひとり視点に立ち、現在の保育園の環境などを活かしながらどのような保育ができるかを考え、取組みます。そして、その後その子どもや周りの子どもたちにどのような変化があったかという振り返りを保育アドバイザーと共にを行い、評価もさせていただいたことを質の向上として記載させていただいております。よろしくお願いします。

はい。

【藤枝委員】

ありがとうございます。

【師岡会長】

他はいかがですか。川越委員どうぞ。

【川越委員】

指標を合わせた整合性の部分をお伺いしたいのですが、指標の中で幼児教育・保育従事者研修の実施回数が3回ということで目標値に達していないとありますが、ここが目標に達していない原因についてお伺いしたいのと一方で自己評価の冒頭に、素案などを取りまとめて方向性を示すことができたとあり、質向上に向けた取り組みをしてくださっているという理解はしておりますが、研修を実施することが質の向上に寄与するので指標で示し継続して重点的に行っていた方が

いいのか、それとも研修より乳幼児期の教育・保育に関する方針や公開保育を実施する中で、質向上を図っていくことを重視するのか今後の方向性についてもお伺いできればと思います。

【星野教育・保育発達支援課長】

1点目の3回の幼児教育保育従事者研修の実施回数についてですが、こちらの研修は八王子市職員、保育園協会、幼稚園協会の3者でその年度でどのような取り組みをしていきたいということ話し合いながら実施しているものになっており、昨年度は「AIに負けない力」、「子どもの遊びが広がるカリキュラムを考える」、「子どもの声を大切にするインクルーシブ保育 自分らしさが生きる保育実践を作る」という3本立てで行いました。目標値が8回以上となっておりますが、次年度学びたいことについて、どのような量でどのような内容がよいか3者で協議しながら進めており、回数を増やすことを目指すものなのかという点については、増やすだけがよしとはしておらず、毎年度協議を行いながら必要な回数を行い質の向上を図っているのが現状となります。

【川越委員】

ありがとうございます。今お話しいただいたように保育園では、子どもをとて大事に考えて園での取り組みをすぐ改善しようと先生方が一生懸命努力してくださっているとすごく感じておりますので指標の実績だけにとらわれずに評価してもいい部分はあると思います発言させていただきました。

【師岡会長】

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。今の幼児教育・保育従事者研修実施回数の件で少し気が付いたことがあったので、発言させていただきます。目標値が8回以上となっておりますので、この幼児教育保育従事者研修の実施回数という項目を今ご説明いただいた公立や民間の幼保合同の研修会ということに限定せず、もう少し規模や団体を絞った中で研修を市としてもマネジメントしている実態があると思いますし、広く保育者たちの質の向上に繋がることですのでそれらも含めて目標値8回ということを目指すとお考えいただいた方がよいのではないかと思います。

【星野教育・保育発達支援課長】

ありがとうございます。他にも様々な保育の先生方と行っている研修がありますので、ご提案いただいた内容で実績値を出していくことについて検討してまいります。

【師岡会長】

ありがとうございます。来年以降少し広げていきましょう。では、自己評価について市はBということですが、分科会としても、同じB評価でよろしいですか。では分科会としてもB評価とさせていただきます。

では続いて基本施策 4 健やかな育ちや自立に向けた支援についていかがでしょうか。

【齋藤委員】

施策 11 について 2 点あります。施策 11 の 3 つ目の学校や関係機関と連携した八王子市学園都市推進会議のところで、新入生に向けた情報誌 BIGWEST2025 に薬物の危険性や飲酒・喫煙による健康への影響等について記事を掲載し 18,000 部を新入生に配付されたということですが、新入生に配付するだけでは駄目で新入生がきちんと理解をしたかという部分が大事だと思いますが、この点について把握するような取り組みは行っているのでしょうか。

もう 1 点が、薬物の危険性についての説明方法について、薬物による健康被害はこういうものがあるから薬物は駄目だという注意喚起がよくあると思いますが、少し別の視点で、所属していた部活動の中で薬物問題が発覚して、本人は使用していなかったのに就職活動をしているとその部活動に所属していたという事実だけで、結構就職活動に苦労したという話を聞く機会がありました。薬物問題は本人の健康被害だけでなく、周囲の学生の進路や大学の信用にも影響を及ぼしていますので社会的影響についても、新入生の啓発内容に含めることがよいのではないかと考えます。

【中正子どものしあわせ課長】

この BIGWEST につきましては、学園都市文化課が中心となって、市側の窓口になっておりますけれども、こちらについては、八王子市の遊べるスポットの紹介や学生向けに行っている様々な事業の紹介や各種コンソーシアムに参加している大学の団体の紹介など新入生に向けた様々な情報を取りまとめたものになっており、その中の一部に薬物に関する市からの情報を掲載しております。薬物に関する部分の今年の内容に関しましては、大麻での検挙者に占める大学生の割合が増加しているという部分を取り上げることと併せてこのようなことも処罰の対象になりますという内容を健康に関するご案内の一環として情報提供を行っておりますが、委員がおっしゃるように健康だけではなくて生活にも大きく影響が及ぶようなことと考えますので、そちらについては情報誌だけでなく各種大学生に対する啓発であるとか、大学との意見交換などもしておりますので、多面的に薬物に関する情報提供を新入生に限らず学生の皆さんに行っていけるような取り組みをするよう所管と検討しております。

【師岡会長】

ありがとうございます。他はございますか。

【藤枝委員】

施策 9 から 11 までの指標に関して、施策 11 の青少年の健全育成に向けた支援という視点が、指標の実績のところで読み取りにくいなと思っていて齋藤委員が質問された内容で様々な取組

をされていることが分かったのでそれを指標として何かこの評価に挙げるようなことはできるのでしょうか。変更は難しいかとは思いますが伺います。

【中正子どものしあわせ課長】

委員おっしゃるとおり、基本施策 4 に関しましては3つの施策から成り立っていますが、実際には施策 9 に関する部分と、施策 10 に関する指標が取り上げられている状況で、青少年の健全育成という項目に対しての指標がないような状況ではあります。計画の策定時にはなかった点でありここにすぐ足すというものではございませんが総体として、施策 9、10 を実施することで、基本施策 4 健やかな育ちや自立に向けた支援に関して貢献しているということで、現時点では進捗管理をしたいと考えているところです。

【師岡会長】

実績の枠組みは計画が立った限り途中で修正は困難だと思いますが、自己評価の記載の中で、子どもにシフトしすぎずに若者の方とのバランスを取った形での自己評価を今後も進めていただくということでいかがでしょうか。よろしいですか。他ございますか。野中委員どうぞ。

【野中委員】

施策 10 の若者の創業・起業の支援という記載がありますがこちらの内容についてご説明お願いします。

【中正子どものしあわせ課長】

こちらにつきまして産業振興部の産業振興推進課が実施しておりますが、学生 20 代向けに創業セミナーを開催しております。1 日限りの開催で全参加者が 6 名で規模の大きなものではなかったという報告を受けているところです。

【野中委員】

ありがとうございます。大学コンソーシアムや学生企画事業など様々なところで高校生なり大学生なりが八王子の未来に向けてこんなことやったほうがいいのではないかと考える機会がたくさんあり、また発表もされていますから、そこにマッチングするような形でこれを事業展開していけないとか、そういう形でつなげて創業・起業支援に紐付けができるというかがかなと感じました。

【師岡会長】

他はいかがでしょう。町田委員どうぞ。

【町田委員】

指標 1 の朝食を毎日食べている小学生・中学生の割合ですが、質問の仕方はどのようになっているのでしょうか。YES・NO だけなのか、好んで食べていないのか、食べられないのかなどまで聞いているものなのでしょうか。理由はそれぞれの家庭でもそうですし個人によって違うのかなと思ってはいますが、この点についてどのようになっているのかお伺いしたいです。

【上野統括指導主事】

この質問項目は朝食を食べていましたかという内容となりますが 2 択であるかそれとも違うかというところは後ほどの確認となってしまいますが、例年年度初めの4月に全国学力学習状況調査というものをやっております、小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に行われているもののうちの回答の割合となっております。項目の選択肢については、また今後調べてお示しできたらと思っております。

【町田委員】

メディアを通して、小学生の子が太りたくないとかダイエットだとかという言葉が口にする方が子どもをよく見かけるので、質問項目に関しては YES・NO だけでなくもう少し細分化することがいいのかなと感じておりますのでよろしくお願いいたします。

【師岡会長】

他はいかがでしょう。藤本委員どうぞ。

【藤本委員】

感想になってしまいますが、施策 10 の赤ちゃんふれあい事業についてですが、中学校ほぼ全校でやってくださっていてとてもよい事業だと思っています。なかなか学校の先生が性教育となると、言えないことも沢山ありなかなか踏み込んだことが言えないと聞いたことがあるので、助産師さんが来てくれた際に望まない妊娠や避妊の方法など、踏み込んで教えてくださるみたいで、そういうことは中学生にもとても大事ななと思うので、是非、全ての中学校でできればいいなと思いました。

【中正子どものしあわせ課長】

ありがとうございます。私どもの所管で行っている事業でございますが、もう長年の実績がございます、八南助産師会さんが非常によくやってくださっていて、子どもたちのアンケート結果などを見ましても、実際に妊婦さんや、ご兄弟がいらっしゃるお子さんも多いので赤ちゃんに触れる経験が初めてでしたり、妊婦ジャケットを着てこんなに重い体で動かなければいけないのかというお話でしたり、結果として自分を大切にするというような自己肯定感の向上や命の大切さを感じ

じていただける事業にもなっていると考えておりますので、是非引き続きしっかりとやっていきたいと思います。

【師岡会長】

他はよろしいですか。では、分科会の評価に移りますが市はB評価ということですが、いかがでしょう。同じくB評価がよさそうですか。それではB評価といたします。

次に基本施策 5 子ども・若者の居場所づくりに関してはいかがでしょうか。ご質問、ご意見ございますか。藤本委員どうぞ。

【藤本委員】

具体的な施策というより、中学校では部活動改革として部活動の地域移行が起きています。それによって中学生の方の放課後の居場所をどうするかという問題に今なっていますが、この居場所づくりという政策の中で、中学生の放課後の居場所についての情報などはあるでしょうか。大人が見えにくい部分でもあり何か情報があればお聞かせいただきたいです。

【師岡会長】

今の件について、田中委員いかがですか。

【田中委員】

部活が縮小されたことによって、確かに以前は全員が何かしらの部活に入ってという時期と比べると 70%以上くらいの加入に減ってきているのは事実です。それによって部活を活動していない生徒たちの居場所ということで言うと、地域のクラブ活動であり、または習い事であり、そちらは増えていると思います。また以前、部活には所属していたけれども参加をしないという生徒が部活に入らなくてよくなると入らないということもあります。活動の場所については屋内で友達と一緒にオンラインゲームをしているというようなことが増えているという話は聞きました。友達とのやりとりがネット上になるので、家に帰って何時に入ろうと約束をして、一緒にゲームの世界感を味わうという生徒が増えているのが実情だと思いますが、外での活動が減っているという感じは今のところはないですが、ただやっている内容については違うということはあると思いますので、今後の様子を見ながら対応してまいりたいと考えております。

【河合青少年若者課長】

はちビバという施設市内 10 館ございますが、そこに比較的近い中学校につきましては、はちビバへ来館をされている子どもたちもおります。はちビバは小学生中心ではありますが、中学生は遊戯室でバスケットやバトミントンなどで体を動かすこともやっておりますので、そういった形で活動に参加されている方も多い状況でございます。

【師岡会長】

他はございますか。大木委員どうぞ。

【大木委員】

施策 12 中の地域資源を活用した居場所づくりの子ども食堂についての意見・感想となりますが、コミュニケーションが上手に取れないお子さんが参加して、段々大人の中で慣れていって、今や回しているというか、そこまで成長されている姿を見ることができとてもすごいなと思います。あと施策 14 について、居場所づくりの担い手の確保・育成というところで、中学生もできたものを運んでいるという姿も最近は見られるようになって、多世代との交流などもあり子ども食堂も居場所づくりというところでは、かなり貢献しているのではないかなという印象があります。

【師岡会長】

貴重な情報ありがとうございました。他ございますか。和田委員どうぞ。

【和田委員】

施策 12 の多様な居場所の確保・創出のところですが。私も子どもの居場所を創っている立場ですが、ある団体では子ども食堂はあればあるほどよい、各小学校区に1ずつあってもよいと言って、要するに場所があれば、その場所が苦手な方でも次の居場所あるというように考えてやっていたりする訳です。居場所が増えれば増えるほどよいと思いながらも中には否定的な意見も上がってくるのだなということを実感する場面もありましたが特に子ども食堂に対して否定的な意見が届いていたりされているでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】

子ども食堂については、私どもで補助金を出させていただくなど、社協さんを通じてつなぐ取り組みをしておりますが、そのような否定的な意見は市には届いていない状況です。寧ろ様々なことで気になるお子さんを支援いただいたりや先ほどおっしゃっていただいたように様々な方との交流ができて良かったという肯定的なご意見ばかりの状況でございます。

【和田委員】

ありがとうございます。その流れでこの評価のところ、一方で居場所の担い手や居場所同士の連携強化とあり、やはり課題として連携を強化しなくてはいけないということがここまで3連続ほど出てきたりしていますが、正直連携するということは大変で、これは感想になりますが、やはり連携の仕方は形をどうしていくのかを考えることがとても大事ななと思っていて、最初の方の質問でも言いましたけど市に丸投げするものではないので、連携は大変だしよく分からないというこ

とを投げかけた上でどういう連携取れたらいいのかということは、例えばフリースクールだったり、子ども食堂にしても、どういう連携がいいのかってのも考えさせるじゃないですけどそのようなことがあってもいいのかと思います。ベターな連携とは何だろうというのは、市でも民間でも考えた方がいいなと感じているので述べさせていただきました。

【師岡会長】

大いに参考にしていただくと良いご意見だったと思います。そういう意味では、市が何でもかんでも抱え込むということではなく、つなぎ役、或いはそういった連携の場づくりみたいなものを実際には現場の方たち、或いは市民の方たちが主体的に繋がっていくことのきっかけづくりという視点があってもよいのかもしれません。ではよろしいでしょうか。こちらの方の評価、市はB評価ということですがいかがでしょうか。今のやり取りまた実績などを見ながら、B が妥当でしょうかね。ではB評価とさせていただきます。では以上で基本方針の1は終了となりました。予定された時間20分程度となりますが全体を通して前回からもそうですが、ややペースがゆっくりですので、委員の皆さんがよろしければ、基本方針2の説明だけでも今回伺って、次回少し間が空きますけれども資料はもうお手元ございますので、見てきていただくということで、少しでも次回の時間を有効に使えるばと考えますがいかがですか。では2の説明だけでもお願いいたします。

【事務局】

（事務局から資料2について説明）

資料2「令和7年度(2025 年度)子ども・若者育成支援計画 点検評価報告書(案)(基本方針1・2・3)」に基づき、基本方針2の各施策の事業の取組内容及び実績について一括説明。

【師岡会長】

ありがとうございます。若干、時間がありますが、次回、議論を丁寧に進めていく上で、現時点で特に順番は問いませんので事実関係で質問しておきたいというようなところがありましたらご発言ください。川越委員どうぞ。

【川越委員】

次回の説明の際で構わないですが細かい部分で18ページの基本施策9の指標の実績の子育てひろばの年間利用者数についてですが、可能でしたらそれぞれの場所毎にどこが何か多いのかというところが分かるとありがたいなと思いましたので、次回確認できたと思います。

【師岡会長】

今の点について検討をお願いします。他にありますか。野中委員どうぞ。

【野中委員】

16 ページの指標の 3 番目のいつでも相談できる人・場がある子育て世帯の割合という、この指標の数値の根拠はアンケート調査だったのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】

市政世論調査の項目で、取っているかと思います。上位計画である八王子未来デザイン 2040 の指標になっているもので、その指標の調査をする中での数値になっています。

【師岡会長】

他はありますか。それでは今日はこの辺で区切りたいと思います。次回に向けて、今ご説明いただいたことを各自でも読み込みながらご意見を賜ればと思います。では、事務局に進行をお戻しします。

【事務局】

皆さん遅い時間までご議論いただきまして大変ありがとうございます。次回の会議につきましては、7 月 10 日金曜日、午後 6 時から、場所は同じくこの 801 会議室ということになってございます。それではこれをもちまして本日の会議は終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。